Hikone

国宝彦根城を中心とした伝統を受け継ぐ城下町 彦根

彦根税務署　総務課長
池上　榮一

ーはじめにー

彦根市は、琵琶湖と鈴鹿山系に囲まれた豊かな自然に恵まれ、江戸時代に彦根藩35万石の城下町として本格的な歩みを始め、現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめるとともに、中世から近世にかけての歴史遺産が今なお、数多く存在しています。

彦根税務署は、その彦根市の中心部、彦根城の間近に立地し、彦根市のほか愛知郡（愛荘町）及び犬上郡（豊郷町、甲良町、多賀町）を管轄しています。その歴史は古く、明治23年には滋賀県彦根直税分室として存在しており、現在の庁舎は昭和36年に新庁舎として建築されたものです。

ー彦根城築城410年（彦根藩の歴史）ー

大老井伊直弼で知られる彦根藩は、関が原の合戦で勝利した徳川家康が、合戦で軍功を挙げた井伊直政に、敵将石田光成の居城の佐和山城と近江国北東部の領地を与えたのが始まりです。

彦根城は、井伊直政の遺志を継いだ子の井伊直継・直孝によって金亀山に築城を開始し、資材は佐和山城のほか、天守は大津城、天秤櫓は長浜城から移築するなどして、城郭などのすべての完成までは、約20年の歳月をかけて築かれました。

2017年は築城410年ということで各種催しが開催され、観光客が多く訪れるなど、大いに盛り上がりました。

なお、例年、紅葉の季節にはライトアップにより幻想的な姿を見せるほか、毎年11月3日の「ひこねの城まつりパレード」の子供大名行列や、お花見の季節には約1,200本の桜が咲き、夜桜見物の人々で賑わうなど、季節により見せる表情の違いが楽しめます。

ー「ひこにゃん」の住む町ー

元祖ゆるキャラともいえる「ひこにゃん」は、彦根藩二代藩主である井伊直孝公をお寺の門前から手招きして落雷から救ったと伝えられる“招き猫”と井伊家の戦のシンボルである“赤備え”の兜を合体させて生まれたキャラクターです。

彦根市に住民票（※1）を置き、その進学先が議論（※2）となるなど、まさに彦根市民の一員として日々、がんばっています。

なお、彦根城に毎日3回ほど登場しますので、事前にスケジュールを確認の上、ぜひ、会いにお越しください。

（※1）生年月日は平成18年4月13日の11歳です。
（※2）小学校ではなく寺子屋に通っているということで決着したという噂…

平成29年度納税表彰式の「ひこにゃん」

ー観光スポットの紹介ー

○　玄宮園

彦根城敷地内北側に位置し、井伊家四代当主である井伊直興公が延宝5年（1677年）に造園した池泉回遊式の大名庭園「玄宮園」は、中国唐時代の玄宗皇帝の離宮をなぞらえたもので、江戸時代初期の庭を現代に伝える名園です。

唯一の園内宿泊施設である「八景亭」は、惜しまれつつ平成29年11月をもって営業を終了しましたが、園内の池から臨む彦根城は変わらず勇壮なたたずまいを見せ、絶好の撮影ポイントです。

○　佐和山城跡

古くから近江の要衝を守る城として重視された佐和山城は、信長自身が近江制圧の拠点とし、秀吉の時代にも重きを置く姿勢は変わらず、五層の天守を構える非常に立派な城であったといわれています。

彦根城築城に伴い廃城となり、資材は彦根城や麓の龍潭寺（※3）などに運ばれ、現在はわずかに「佐和山城跡」の看板が往時を物語るだけとなっていますが、ハイキングコースが整備されており、山頂からは彦根城や琵琶湖が一望できますので、ボランティアガイドの解説を聞いて悠久の歴史に思いを巡らせてはいかがでしょうか。

（※3）井伊家の菩提寺として遠江国（現静岡県）に開基された臨済宗妙心寺派の寺院であり、井伊直政が佐和山城主となったのを機に分寺して建立したといわれています。

○　多賀大社

「古事記」にも登場する多賀大社は、「お伊勢お多賀の子でござる」との俗謡もあり、「お多賀の子」とは、伊勢神宮祭神である天照大神が伊邪那岐・伊邪那美両神の御子であることによります。

特に長寿祈願の神として信仰され、豊臣秀吉が母の延命を祈願して成就したことから1万石を寄進したことで知られています。

門前町の名物の一つの「糸切餅」は、元寇の戦勝に謝して奉納した事が由来とされ、餅の表面に赤青3本の線で蒙古の旗印を模し、刃を用いずに悪霊を断ち切り、安寧と長寿を祈念するものとされていますので、お越しの際は、ぜひご賞味ください。

ー伝承工芸（彦根仏壇）ー

彦根仏壇の起源は、江戸時代中期とされ、武具、武器の製作に携わっていた職人が、泰平の時代を迎え、その技術を生かして平和産業としての仏壇製造に転向したのが始まりといわれています。

門前町の「糸切餅」

大型のものも多く、お立ち寄りの際にはぜひ一基…というのは難しいですが、市内には通称「七曲がり」と呼ばれる通りがあり、多くの仏壇店がありますので、ご興味のある方は、その技術の高さをご覧になってはいかがでしょうか。

ー鳥人間コンテストー

意外に彦根名物として知られていないのが、最近、映画化もされて話題となった、開催40回を重ねる鳥人間コンテストです。

第4回大会からは彦根市の松原水泳場を会場として開催されており、例年7月下旬ごろの開催日2日間は、多くの参加者、見物客で賑わいます。

テレビ放送ではテンポ良く各チームが飛び立ちますが、実際には機体の回収等で長時間待つこともしばしばですので、見学の際には日除けと水分と忍耐力の持参が必須です。

ーおわりにー

紹介のとおり、彦根は彦根城を中心として歴史的な観光スポットが数多く存在しますが、近年は彦根城近くの“キャッスルロード”に代表されるグルメやお土産店も多く、季節を問わず幅広い年齢の方が楽しめる街になっています。

交通も新幹線の米原駅が近く、大阪方面からも名古屋方面からも便利な立地ですので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

Yoshino

歴史の痕跡と豊かな自然が共存する森の国 吉野

吉野税務署　総務課長
柴田　忠久

―はじめに―

吉野税務署は、奈良県中南部に位置する吉野郡3町8村を管轄しており、管内地域の大半が山岳森林地帯で豊かな自然の景観や多くの名所・旧跡が存在しています。

管内面積は、2,055km^{2}で奈良県の総面積の約56％を占め、大阪局管内では、最大の管轄区域となっています。

なお、その歴史は古く、明治29年11月に上市（かみいち）税務署として設置され、明治42年に吉野税務署に改称され現在に至っています。

―吉野山千本桜―

奈良県のほぼ中央に位置した山岳地帯で、シロヤマザクラを中心に約200種3万本の桜が密集しています。

吉野山の桜

日本全国の桜の名所の多くは、近代になってから整備するなど、「花見」のために植栽・管理されているものですが、吉野山の桜は、今から約1,300年前から、「ご神木」として崇拝され、信仰の対象として大切に保護されてきました。

桜は、吉野山の4箇所に密集し、それぞれの箇所が、下千本・中千本・上千本・奥千本と呼ばれており、「一目して千本見える豪華さ」という意味で「一目千本」とも呼ばれています。

万葉集など歴史的な書物にも記載されており、歴史の大きな舞台に度々登場してきました。

春には豪華絢爛な桜が咲き乱れ、多くの観光客が訪れます。

―世界遺産―

平成16年に奈良県、和歌山県及び三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、管内には、霊場「吉野・大峯」と参詣道「大峯奥駈道」などが所在しています。

霊場「吉野・大峯」は、吉野山、吉野水分神社、金峯山寺、吉水神社、大峰山寺で構成され、標高千数百mの山々が続く修験道の聖地として、10世紀の中頃には日本第一の霊場として信仰を集めました。

金峯山寺蔵王堂

ー谷瀬の吊り橋ー

十津川村にある谷瀬の吊り橋は、昭和29年に架橋され、長さ297m、高さ54mの規模で、生活用の鉄線吊り橋としては、日本一の長さを誇っています。

そびえ立つ深い山々に囲まれ、眼下には清流の十津川が流れており、橋から眺める景色はまさに絶景です。

ただし、歩くたびに揺れるほか、床板は、ところどころ節穴があいており、高いところが苦手な方にはお勧めできません。

なお、地元の方にとっては、生活に欠かせない橋であるため、バイクや自転車でも平気で渡っておられます。一度挑戦してみてはいかがでしょうか。

谷瀬の吊り橋

ー受け継がれる酒造りー

奈良県は、古代から日本酒造りと深いかかわりがあり、県内には、酒の神である大物主大神が祀られている大神神社や「日本清酒発祥の地」とされている正暦寺が所在しています。

室町時代には、近代醸造法の基本となる酒造技術が確立され、豊かな自然と大峰山系伏流水の良質な湧水に恵まれている管内には、5つの蔵元(㈱岡本本家、㈱北岡本店、美吉野酒造㈱、藤村酒造㈱、北村酒造㈱）があり、伝統ある日本酒造りの技術が代々受け継がれています。

左から山桂（やまかつら）・八咫烏（やたがらす）・花巴（はなともえ）・万代老松（まんだいおいまつ）・猩々（しょうじょう）

ー日本の造林発祥の地ー

吉野地域は、日本の造林発祥の地とされ、約500年にわたって培われた造林技術により、重厚な深緑の絨毯のような日本一の森を形成し、平成28年に「森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地～吉野」として日本遺産に認定されました。

植林最古の記録は、室町後期の川上村に残っており、今も樹齢約400年の杉・桧が連なる森が川上村下多古地区にあります。

江戸中期には、江戸などの大都市に酒を輸送するための樽の材料として、吉野地方の木材の需要が増え、以降、独自の技術を創造し、強度が強く色艶や香りのよい、どの地域の木材よりも美しい杉・桧の「吉野材」が生み出されました。

このため、現在でも管内の主要産業は、林業となっており、「吉野材」の加工基地として製材業、木工業者が集中しています。

吉野杉の人工美林

ーおわりにー

今回、ご紹介できたのはほんの一部で管内には、まだまだ多くの名所・旧跡が存在しており、見所満載です。

また、近畿日本鉄道の大阪阿部野橋駅からは、吉野行の観光特急「青の交響曲（シンフォニー）」が運行されており、優雅な旅行気分を味わいながら吉野を訪れることができますので、この機会にぜひ、吉野へお越しください。

Wakayama

歴史と伝統が息づくまち

～万葉と紀州徳川ゆかりの地～

和歌山税務署　総務課長
石原　照幸

ーはじめにー

和歌山税務署は、紀伊半島の北西部にある和歌山市を管轄しており、「紀の川」の河口に位置し、瀬戸内海の一角を占め、緑あふれる豊かな自然と黒潮がもたらす温和な気候に恵まれています。

管轄面積は、約209km^{2}で、人口は約36万人、世帯数は約154千世帯（平成29年11月現在）となっています。

当署は、明治29年11月に設置され、昭和22年7月海南税務署の新設に伴い海南市、海草郡の一部を移管し現在に至っています。

また、平成29年9月19日に「和歌山地方合同庁舎」へ移転し、大阪国税局管内で最も新しい建物となっています。

和歌山地方合同庁舎

ー万葉の和歌の浦に憧れてー

若き日の聖武天皇が奈良時代に和歌の浦（当時「若の浦」）に行幸され、なだらかな山々に囲まれながら自然の営みによって育まれる干潟と玉のように連なる小山を目にしました。同行した宮廷歌人・山部赤人（やまべのあかひと）が天皇の感動した様子を和歌に詠んでおり、この歌が海の景勝地の歌枕として知れ渡り、都の貴族にとって憧れの地となっていきます。

平安時代には、和歌の神である衣通姫（そとおり）が玉津島神社に祀られ、若の浦は「和歌の浦」と呼ばれ和歌の聖地としてあがめられていきます。

そして中世末、豊臣秀吉が紀州の攻めの際に古来の景勝地である和歌の浦を遊覧し、その名にちなんで、北方の岡山に建てた城を「和歌山城」と名付けたといわれています。

江戸時代には、紀州徳川家が霊地として手厚く保護し、西国巡礼や熊野参詣の旅人が立ち寄る名所となりました。

和歌にうたわれ、和歌の文化を育み、芸術の源泉となった和歌の浦。絵になる絶景の宝庫として、今も人々を魅了し続けています。

日本遺産「絶景の宝庫　和歌の浦」

ー和歌山のシンボル和歌山城ー

紀州徳川家の栄華を今に伝える和歌山城は、豊臣秀吉が紀州を平定後、弟の秀長に築城させたのが始まりです。そして元和5年（1619年）、徳川家康の第10男・頼宣が55万5千石を領して入城、以後和歌山城は徳川御三家の1つになり、「南海の鎮（しずめ）」として、幕府における西国支配の拠点となりました。

こんもりした虎伏（とらふす）山にそびえる城の天守閣に登ると、悠久のロマン漂う紀の川の流れと、城と共

に発展してきたまちの様子が一望できます。

白亜の和歌山城

ー幕府中興の祖　徳川吉宗ー

徳川吉宗は、藩祖頼宣の孫で、第2代藩主光貞の第4男として、紀州和歌山で生まれました。三人の兄が次々と病死し、宝永2年（1705年）に第5代藩主になりました。更に紀州藩主になった時の第5代将軍綱吉が宝永6年に死亡すると甥の家信が将軍になりました。その家信も3年後に病死、その子の家継も急逝したため、将軍の後継者が幕府内部にいなくなりました。

これにより御三家から跡継ぎが選ばれることになりましたが、家康との血縁関係の親疎から、吉宗が選ばれ、後に享保の改革を断行し幕府を立て直しました。紀州藩主や将軍の継職など、吉宗の周辺は幸運が作用したといえます。

しかし、この出世は単なる幸運だけではありませんでした。吉宗が紀州藩主になった頃の藩財政は、江戸屋敷の3度もの焼失や綱吉の2度の藩邸訪問などの費用がかさみ、極度に窮乏していました。しかし、吉宗は徹底した緊縮政策の励行と新田開発による米の増産によって、約10年間で財政を見事に立て直し、紀州藩を復活させたのでした。

兄や将軍の死があったとしても、彼に紀州藩財政再建の実績がなかったとしたならば、彼が将軍の座を射止めることはできなかったといえ、その意味で、開明的な紀州人の気質をもっていたがゆえに将軍になり得たのだと考えられます。

ー歴史と伝統が息づくまちー

和歌山市には、時代を感じさせる寺院や庭園が数多く残され、往時の繁栄を今に伝えています。

○　紀三井寺（きみいでら）

紀三井寺は、宝亀元年（770年）に唐の僧為光（いこう）上人によって開かれ、歴代藩主が紀州徳川家の繁栄を祈願し参拝しました。境内からは和歌の浦が一望でき、関西一早咲きの桜があることでも知られています。3つの井戸があることが寺名の由来で、この水を飲むと煩悩が消え去り仏の三昧に入ることができるといわれています。

春の紀三井寺

○　紀州東照宮

紀州藩初代藩主頼宣が父家康を祀るため、元和7年（1621年）に建立した寺院です。青石を敷き詰めた参道は昼でも薄暗くひんやりとし、侍坂と呼ばれる急な石段を登ると豪華絢爛な社殿が目に入ります。本殿は江戸時代の代表的建築の権現作りで、国の重要文化財に指定されており「関西の日光」ともいわれています。

ーおわりにー

和歌山市は、関西国際空港から約40分の距離にあり、世界遺産・高野、熊野の玄関口として脚光を浴びています。

澄んだ空、青い海そして万葉集の詩情、徳川ゆかりの名所・旧跡なども深訪できる紀州路をこころゆくまで味わってみてください。「和歌山へつれもていこら（一緒に行きましょう）！」